

伊藤文夫 陶展



2011 9.10 sat.-10.10 mon.

- 休館日 毎週水曜日
- 開館時間 午前10時～午後6時
(最終入館は午後5時30分まで)
- 観覧料 一般 300円 (250円) 大・高校生 200円 (150円) 小・中学生 100円 (80円)
※ () は20名以上の団体割引料金

喜多方市美術館

喜多方市字押切2-2 〒966-0094 phone. 0241-23-0404 facsimile 0241-23-0406
<http://www.city.kitakata.fukushima.jp/bijyutsukan/>

福島県須賀川市勢至堂に窯を構える伊藤文夫氏は、初対面でも相手を緊張させない不思議な魅力を感じさせる作家です。それは、ことさら構えることなく、飾ることもなく、「自然体」を心がける創作観から滲み出る印象なのかも知れません。あるいは、生来の人柄がそうさせるのかも知れません。いずれにしても、人からも作品からも「謙虚にして驕らず」の姿勢が感じられます。

焼物の歴史の中では、さまざまな材料や技法が生まれ、取り入れられ、多様な作品が生み出されてきましたが、伊藤文夫氏の作品は焼締やきしめが中心です。

人工的な釉薬(ゆうやく、うわぐすり)を使わず、薪の灰が熱で溶けて自然に土の成分と反応し、ガラス質に変化して美妙的な景色をつくりだす焼締は、縄文や弥生やそれに続く時代の素朴で趣深い器づくりに通じるものがあり、古き時代の作品に心ひかれる作家がこの技法に強く魅力を感じる所似ゆえんでもあります。

伊藤文夫氏の工房「鉢の子窯」は、せせらぎや小鳥の声、木の葉のざわめきが聞こえる自然の中にあります。土は言うに及ばず、窯や薪にこだわり、作品づくりのさまざまな環境を整えることを意識して、30年前に故郷の山間の小さな集落に制作の拠点を構えました。

この展覧会では大壺や花器などを中心に、近作もふくめて66点を紹介していますが、千年もの昔、平安の世につくられた焼物が、時代が変わってもなお輝きと存在感と品格を失わないことに驚嘆しつつ、それを自らの創作の高い目標に掲げて精進を惜しまない氏の作品は、見る人に深い感銘を与えます。

喜多方市美術館にとって初めてとなる焼物の展覧会を、この作家の作品で飾ることができたことは、主催者として嬉しい限りです。

2011年 9月

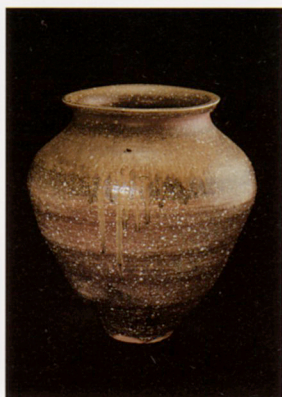
喜多方市美術館



粉引方壺



南瓜壺



信楽大壺



南蛮柿のへた茶盃



自然釉引き出し大花入

喜多方市美術館

□お問い合わせ
喜多方市字押切2-2 〒966-0094
phone.0241-23-0404 facsimile 0241-23-0406
<http://www.city.kitakata.fukushima.jp/bijyutsukan/>

次回の展覧会のお知らせ

伊藤将和現代アート展
漆の芸術祭連携企画展
10.22sat.-11.23wed.
休館日 水曜日(11.23は開館)
観覧料 一般300円 大・高校生200円 小・中学生100円



◇ 駐車場 喜多方プラザ文化センターの駐車場をご利用ください